

境港

境港管理組合

〒684-0004 鳥取県境港市大正町215

みなとさかい交流館3F

☎0859-42-3705

URL : <http://www.sakai-port.com/>



1. 概況

境港は、山陰地方のほぼ中央、弓ヶ浜半島の先端に位置し、境水道を挟んで北側の島根半島を天然の防波堤として、往古より日本海交通の要衝として栄えてきた山陰随一の良港である。

地理的には敦賀・下関両港のほぼ中央に位置し、阪神・山陽・九州の各経済圏とも密接な関係を有するのみならず、対大陸貿易の拠点として格好の位置を占めることから、戦前は日本海国内航路の要衝として、また対岸貿易港として大いに繁栄した。さらに戦後の本格的な修築工事により、山陰地域の物流拠点として港勢が拡大し、昭和26年に重要港湾に指定。昭和33年には鳥取・島根両県協定による境港管理組合が発足し、現在に至っている。

昭和41年に後背地一帯が中海地区新産業都市に指定され、以後、工業団地の形成が進められると、後背地の産業・経済を支える国内流通拠点港湾として、また隠岐諸島を結ぶフェリー・旅客輸送の拠点として、積極的な港湾整備、振興がなされた。

平成元年には初の外貿コンテナ定期航路が開設、平成7年には輸入促進地域計画（境港FAZ計画）が国から承認され、さらに平成16年には山陰地域初の国際コンテナターミナルとアクセス道路となる江島大橋が相次いで供用開始される等、国際港湾として拠点性を高めている。

平成21年度からは、環日本海諸国を結ぶ国際定期フェリーが就航（現在休止中）し、平成23年には日本海側拠点港に選定、さらに平成28年に外港中野地区国際物流ターミナルが開始すると、翌年にはポート・オブ・ザ・イヤー2017（公益社団法人日本港湾協会）を受賞するなど、その取組は高く評価されている。

本港の将来計画について、将来に渡って背後企業の産業活動を支え、地域経済の発展に貢献する港づくりを推進するため、概ね30年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間の形成とそのあり方を構想・ビジョンとして、目指すべき将来像やその実現に向けた空間利用計画（ゾーニング）、施策などを「境港長期構想」として取りまとめた。その中で、北東アジア諸地域とのゲートウェイとして、「物流・産業」「人流・賑わい」「安全・安心」「環境」の4つの視点を目指すべき方向性とし、施策の展開方向として以下の戦略のもとに推進することとしている。

- 1) 中国地方の国際競争力強化に資する日本海側国際海上コンテナ輸送拠点機能の拡張
 - 2) 背後圏産業を支えるバルク輸送拠点機能の再編
 - 3) 外内貿フェリー・RORO輸送拠点機能の集約
 - 4) 中海・宍道湖・大山圏域観光を支える海上アクセス拠点機能の強化
 - 5) 豊かな自然環境を活用したレクリエーション・マリンスポーツ拠点機能の強化
 - 6) 国土の強靱化を支える港湾機能の強化
 - 7) リサイクル産業や再生可能エネルギー産業を支え、自然環境の保全・再生を推進する環境先進港湾機能の強化
- 社会経済情勢、港湾物流の動向等の変化を踏まえたこの長期構想により、港湾計画（平成17年度）の改訂に向けた検討を進めている。

令和2年4月には、大型化するクルーズ客船の需要にも対応した新しい岸壁と旅客上屋「境夢みなとターミナル」が外港竹内南地区で供用開始。本港周辺地域には水木しげるロードや白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース等の観光資源があり、これらと連携した交流拠点として、また市民の憩いの場としても役割を果たし、「北東アジアゲートウェイ」として、日本海側の物流・人流の拠点となり、圏域の経済発展に寄与することを目指している。